

外部講師を招いて授業展開

筑波大学附属聴覚特別支援学校（原島恒夫学校長）は、日本で唯一の国立の聴覚特別支援学校（ろう学校）だ。その教育内容は特別支援学校として国内でも随一の水準を誇る。寄宿舎を備え、中学部、高等部、専攻科（ビジネス情報科、造形芸術科、歯科技工科）には全国から優秀な生徒が集まる。高等部では、これまで行ってきた授業や教育活動に「エネルギー」の視点を加える形で、社会科教育での教材作成と高いレベルのエネルギー教育を実践。将来主権者となる生徒に対し、エネルギー問題について正しい知見を持たせると同時に、全国のろう学校に向けたエネルギー教育の教材開発を行っている。

同校のエネルギー教育は、エネルギー教育モデル校に指定された2015年度にスタート。

まず、エネルギーの中でも石炭の活用に着目した。

「石炭は研究データが多く、一つの物語として完結しているテーマ。これから未来を予測する比較対象にもなる」とエネルギー教育を主導する横山知弘教諭。世界史の産業革命で、石炭

を取り上げた。

学習には、事象を①ベース②問題提起③展開④結論——の4つのブロックで整理して効果を上げている「4段式板書法」を活用。石炭によって産業革命が可能になった背景、石炭エネルギーの活用方法、そして結果としての社会変化までを論理的に学習した。

字幕付き教材

次に、オリジナル教材の製作を本格化させた。最初に、教諭陣で福岡県大牟田市の三井三池炭鉱を取材した。取材で得た写真や映像資料など一次教材は字幕を付けて校内のサーバーにアップして、生徒が調べ学習で活用できるようにした。

大牟田市石炭産業科学館から借用したDVDなど映像資料に



ゲーム形式でエネルギーミックスについて考える生徒たち

は字幕を付け、逆にバリアフリー資料として大牟田市に寄贈。大牟田市から感謝状を渡されるときともに、大牟田市からは貸与許可を得て、全国のろう学校に貸し出している。

産業革命における石炭に関する授業資料や、外部講師を招いての特別授業、取材映像などを教材としてホームページに公開。聴覚に障がいのある子どもの字幕を読み取る速度には個人差があるので、各校の実態に合わせた字幕を付け直しやすいように、字幕ファイルと字幕無し映像の公開も行っている。

講師とのやり取りも

同校のエネルギー学習では、外部講師を招いての講演会や特別授業での外部講師とのやり取りも重要視している。学習効果

を高めるため、前もって講師に対する質問を構築してから授業に臨んだ。16年度の特別授業では講師とのやり取りが8回続き、17年度の授業では質疑応答の50分の時間を使い切るほどだった。

聴力に障がいのある生徒にと

ってこれは異例のこと。「従来は、尋ねたいことを文章化するのに時間がかかるので、質問を遠慮する場合が多かった。事前学習することで、積極性を向上させることが分かったのは、ろう学校としても成果だ」と横山教諭。外部講師からも、熱心に

きき入る様子が素晴らしいという評価ももらっている。

エネルギーミックスが課題

17年度は、さらに踏み込み、公民分野で日本のエネルギー事情、エネルギーミックス、石油はじめエネルギー資源の確保などについて、ゲーム形式や資源エネルギー庁の担当官から直接話を聞くなどして学んだ。18年度以降も、社会科以外の教科とも連携を取りながらエネルギー教育を継続していく予定だ。

「生徒たちは、エネルギーミックスについてまだ答えが出ていないようだ」という横山教諭。ただ、「卒業後も生徒と長くつながりを持ち続けるのが本校の特徴。生徒が卒業してからも、一緒にエネルギーを考えていくことになる」と、生涯教育を見据えているようだ。



実験を通じてJ-POWERの外部講師から環境対策について学ぶ生徒たち

生きた知識習得に大きな意義

本校がこのような最優秀賞を受賞したことについて、関係の方々に深く感謝申し上げます。

エネルギー問題は世界の歴史や経済と大きくかわるため、社会科教育の中で考えていくことは大変意義のある試

みであると考えます。また本研究は、主体的かつ対話的なアクティブラーニングとして、子ども達が生きた知識を身につける上でも効果的と考ええます。

今後世界を視野に入れ、未来を築く子ども達の教育に邁進していきたいと思います。



原島恒夫学校長



学校の概要（2017年度）
〒272-8650 千葉県市川市国府台2-2-1
原島 恒夫 学校長
生徒数 73人（高等部普通科）

ろう学校向け教材も開発